

展勝地をイメージ

「北上さくら染め」新作展

「北上さくら染め」の新作展が九日、北上市町分の市文化交流センターさくらホールで始まった。これまでの淡い色合いからイメージを変えた濃い色合いや伝



統的なろうけつ染めの技法を用いた新作のほか、これまでのさくら染め作品、サクラをモチーフにした帯や着物なども合わせて紹介している。十一日まで。

さくら染めは、市内の極楽寺で行われたとされている草木染めを復活させるとともに、北上を代表するサクラを使った製品を作りたいと、同市鍛冶町のさくら染家「和の衣さとう」代表の佐藤敏孝さんらが中心となり取り組んでいる。

サクラの枝のチップを煮出した染料で手作業で染め上げるハンカチやスカーフは、地元でサクラを使ったお土産としても人気を集めており、これまでにショールやさくら紬(つむぎ)などを制作している。

今回の新作は、さくら染めで下染めした友禅やろうけつ染め、刺しゅうを入れた柄付けで、従来の淡い色合いとは違った濃い色合いを出したのが特徴。友禅は展勝地をイメージさせる図柄が手描きで仕上げられ、ろうけつ染めは三段階の間を掛けて、サクラの花びらを趣の違った三色に染め分けている。染めはいつでも京都の染織家が手掛けて

展勝地をイメージさせる友禅などが並ぶ北上さくら染め新作展